年金払定期付積立型変額保険
LIFE PRODUCE (06)
ライフ プロデュース(06)

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

四半期運用レポート

2014年7月～2014年9月

【利用する投資信託の委託会社】

アライアンス・バーンスタイン株式会社

ALLIANCEBERNSTEIN

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要／注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

＊金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

年金払定期付積立型変額保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境　［ 2014年7月～2014年9月 ］

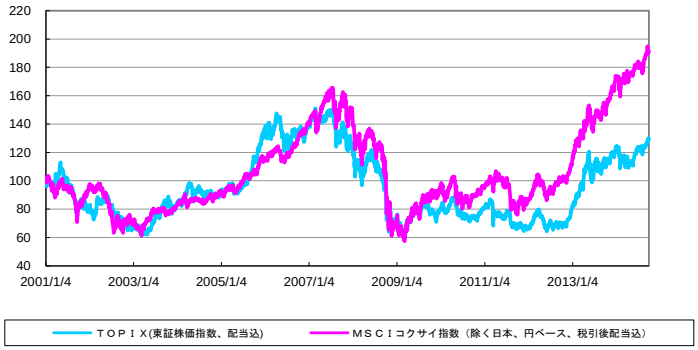
【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前期末比＋5．05%上昇の1，326．29ポイントで終了しました。
7月は、ポルトガルでの信用不安への懸念などから下落する局面もありましたが、中旬から月末にかけては、四半期企業決算への期待や円安基調などを好感して上昇基調で推移しました。8月は、地政学リスクの高まりを受けて円高米ドル安の動きとなったことなどから下落した後、地政学リスクが後退したことや米国の堅調な経済統計などを背景に上昇しました。9月は、円安や日銀の追加金融緩和期待などを受けて上昇基調で推移しました。
業種別（東証33業種）では、円安進行を受けて「電気機器」（前期末比＋11．11%）が最も上昇した一方、業績懸念から「その他金融業」（同△7．23%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、7月、6月の雇用統計の大幅な改善の一方、ポルトガルでの信用不安などから中旬にかけて揉み合いながら推移した後、8月上旬にかけて、地政学リスクの高まりなどから大幅に下落しました。8月下旬にかけては、堅調な経済統計などを背景に大幅な上昇に転じました。9月は、早期利上げ観測の高まりなどから小幅な下落が続いた後、早期利上げへの警戒感の後退などから上昇に転じましたが、月末にかけては、中国や欧州の景気減速懸念などを背景に下落基調で推移しました。期を通して見ると、NYダウは、前期末比＋1．29%上昇の17，042．90ドルで終了しました。
欧州株式市場は、7月、ポルトガルでの信用不安や、ウクライナや中東における地政学リスクなどにより、揉み合いながら下落しました。8月は、低調な景気指標などを受けて大幅に下落した後、中旬から下旬にかけて、追加金融緩和観測が高まったことなどから大幅な上昇に転じました。9月は、ECB(欧州中央銀行)による追加金融緩和決定やユーロ圏の景気指数の悪化などにより揉み合いで推移しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比△1．80%下落、仏CAC40は同△0．15%下落、独DAXは同△3．65%下落となりました。

日本と外国の株式市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



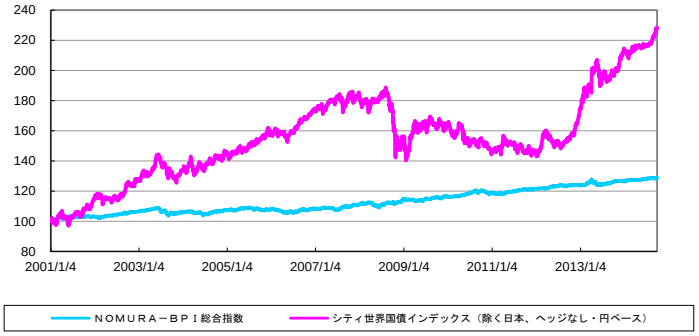
【日本債券市場】

日本債券市場は、7月、国内株式市場の下落や欧米長期金利の低下などを受けて、金利は低下(価格は上昇)基調で推移しました。8月は、株高・円安などを受けて一時上昇（価格は下落）する局面もありましたが、地政学リスクの高まりなどを背景に低下しました。9月は、円安基調や国内株式市場の上昇などを受けて大幅に上昇した後、国債需給の逼迫が意識されたことなどから、低下基調で推移しました。新発10年国債利回りは0．525%となりました（前期末は0．565%）。
日銀はマネタリーベースが年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、7月、雇用統計の大幅な改善などを受けて金利は上昇(価格は下落)して始まりましたが、8月下旬にかけて、利上げ警戒感の後退や地政学リスクの高まりなどから低下（価格は上昇）基調で推移しました。9月は、高値警戒感から売りが先行したほか、早期利上げ観測の高まりなどを背景に大幅に上昇した後、欧州の国債利回りの低下や米国株式市場の下落などを受けて低下基調で推移し、米10年国債利回りは2．489%となりました（前期末は2．530%）。
欧州債券市場は、7月から8月下旬にかけて、ポルトガルでの信用不安や、ウクライナや中東における地政学リスクの高まり、ECBの追加金融緩和観測の高まりなどを背景に低下（価格は上昇）基調で推移しました。9月は、地政学リスクの一服などを受けて上昇(価格は下落)した後、ドイツの景況指数悪化やECBのさらなる追加金融緩和への期待などから低下しました。独10年国債利回りは0．947%となりました（前期末は1．245%）。
FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を0．10%引き下げ、年0．05%としました。

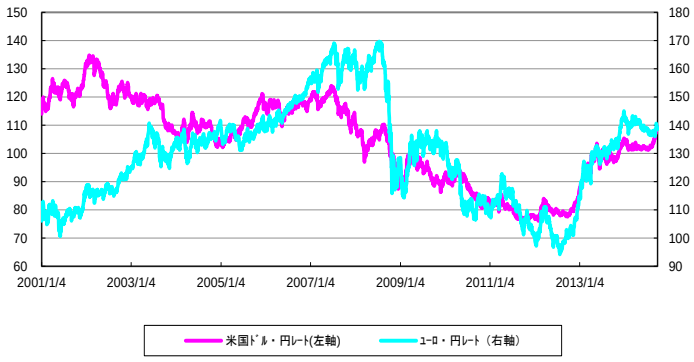
日本と外国の債券市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



【外国為替市場】

米ドル／円相場は、7月から8月下旬にかけて、ポルトガルでの信用不安や地政学リスクの高まりなどから円買いの動きが強まる局面もありましたが、米国の早期利上げ観測の高まりなどから円安基調で推移しました。9月は、米国の金利上昇や、先行きの日米金利差の拡大が意識されたことなどを背景に大幅に円安が進行しました。円は対ドルで前期末比8円9銭円安ドル高の1ドル＝109円45銭となりました（前期末比＋7．98%上昇）。
ユーロ／円相場は、7月、ポルトガルでの信用不安などから円高基調で推移していましたが、月末にかけて、米国の景気回復などの影響により円安の動きとなりました。8月は、ウクライナや中東における地政学リスクや、ECBの追加金融緩和観測の高まりなどにより揉み合いとなりました。9月は、ECBによる追加金融緩和を受けて円高が加速する局面もありましたが、スコットランドの英国残留などを受けて円安が大幅に進行した後は、ECBのさらなる追加金融緩和への期待などから円高基調で推移しました。円は対ユーロで前期末比56銭円安ユーロ高の1ユーロ＝138円87銭となりました（前期末比＋0．40%上昇）。

外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

年金払定期付積立型変額保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	利用する投資信託		
		投資信託名	運用方針	委託会社
ライフ プロデュース30	世界株式 30% 世界債券 70%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス（保守型）	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債（BBB格以上）に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン株式会社
ライフ プロデュース50	世界株式 50% 世界債券 50%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス（中立型）	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債（BBB格以上）に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の50%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
ライフ プロデュース70	世界株式 70% 世界債券 30%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス（積極型）	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債（BBB格以上）に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の70%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
ライフ プロデュース日本株式	日本株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド－1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。バリュー株（割安株）及びグロース株（成長株）への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	
ライフ プロデュース世界株式	世界株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ－3	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
ライフ プロデュース世界債券	世界債券 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド－1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債（BBB格以上）を投資対象に分散投資と投資対象証券の相対的投資価値分析を基本として、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

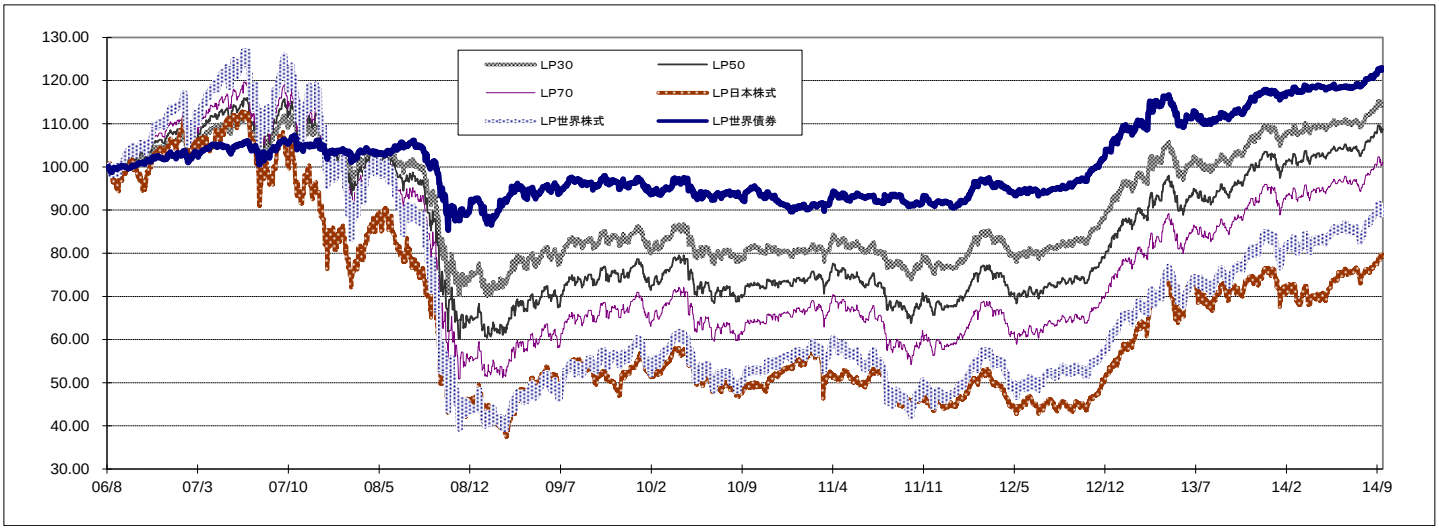
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

年金払定期付積立型変額保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2014年9月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移
※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフプロデュース30			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	114.67	過去1ヵ月	2.39
2014年8月末	112.00	過去3ヵ月	4.13
2014年7月末	110.88	過去6ヵ月	5.25
2014年6月末	110.13	過去1年	13.31
2014年5月末	109.58	過去3年	52.58
2014年4月末	109.54	設定来	14.68

ライフプロデュース50			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	108.63	過去1ヵ月	2.63
2014年8月末	105.85	過去3ヵ月	4.38
2014年7月末	104.78	過去6ヵ月	6.18
2014年6月末	104.08	過去1年	15.43
2014年5月末	103.26	過去3年	65.87
2014年4月末	103.00	設定来	8.64

ライフプロデュース70			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	100.94	過去1ヵ月	2.87
2014年8月末	98.12	過去3ヵ月	4.63
2014年7月末	97.12	過去6ヵ月	7.10
2014年6月末	96.48	過去1年	17.53
2014年5月末	95.45	過去3年	79.57
2014年4月末	95.00	設定来	0.95

ライフプロデュース日本株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	79.10	過去1ヵ月	4.73
2014年8月末	75.53	過去3ヵ月	5.34
2014年7月末	76.64	過去6ヵ月	10.37
2014年6月末	75.09	過去1年	10.59
2014年5月末	71.91	過去3年	71.81
2014年4月末	69.45	設定来	▲20.89

ライフプロデュース世界株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	89.67	過去1ヵ月	3.24
2014年8月末	86.85	過去3ヵ月	4.99
2014年7月末	85.97	過去6ヵ月	8.50
2014年6月末	85.41	過去1年	20.76
2014年5月末	84.13	過去3年	102.50
2014年4月末	83.47	設定来	▲10.33

ライフプロデュース世界債券			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	122.87	過去1ヵ月	2.02
2014年8月末	120.44	過去3ヵ月	3.76
2014年7月末	119.24	過去6ヵ月	3.91
2014年6月末	118.41	過去1年	10.27
2014年5月末	118.32	過去3年	34.71
2014年4月末	118.65	設定来	22.88

※ 特別勘定のユニットプライスは、2006年8月30日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース30		ライフプロデュース50		ライフプロデュース70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	62,562	4.2	464,503	4.5	227,893	4.5
その他有価証券	1,428,774	95.8	9,956,857	95.5	4,825,580	95.5
合計	1,491,337	100.0	10,421,361	100.0	5,053,474	100.0

項目	ライフプロデュース日本株式		ライフプロデュース世界株式		ライフプロデュース世界債券	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	68,946	3.7	253,953	4.4	98,744	4.1
その他有価証券	1,814,180	96.3	5,490,313	95.6	2,285,991	95.9
合計	1,883,126	100.0	5,744,267	100.0	2,384,735	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

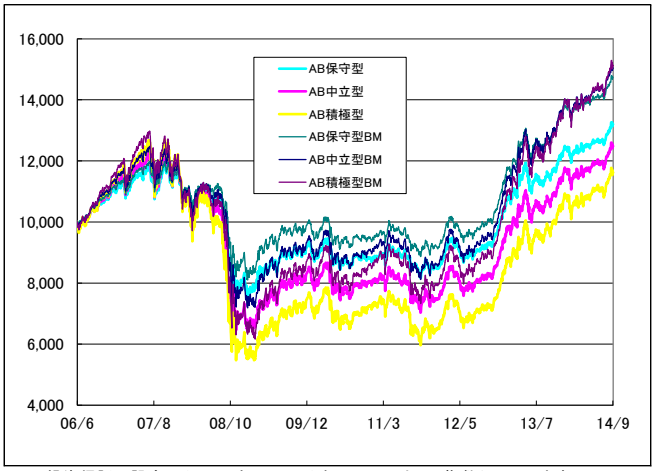
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

年金払定期付積立型変額保険
特別勘定の四半期運用レポート（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフプロデュース30・50・70　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2006年6月5日）を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　LP30 ⇒ 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス（保守型）
LP50 ⇒ 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス（中立型）
LP70 ⇒ 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス（積極型）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債（BBB格以上）に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス[*1]を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

※　当投資信託は、主として、
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券、
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券
に投資します。

＊ LP:　特別勘定　ライフプロデュース
＊ AB:　アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス

■当投資信託の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
AB保守型	2.60%	4.60%	6.07%	15.11%	58.90%	32.00%
BM	2.41%	4.78%	6.43%	15.56%	63.14%	47.37%
差	0.19%	▲0.18%	▲0.37%	▲0.45%	▲4.24%	▲15.37%

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
AB中立型	2.85%	4.85%	7.05%	17.32%	72.85%	24.83%
BM	2.62%	5.15%	7.51%	18.25%	80.38%	50.42%
差	0.23%	▲0.30%	▲0.46%	▲0.93%	▲7.53%	▲25.59%

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
AB積極型	3.12%	5.10%	8.03%	19.55%	87.49%	16.13%
BM	2.83%	5.52%	8.57%	20.94%	98.95%	51.18%
差	0.29%	▲0.41%	▲0.54%	▲1.39%	▲11.46%	▲35.05%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2006年6月5日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	AB保守型	AB中立型	AB積極型
MSCIワールド・インデックス[*2]（税引後配当金込／円ベース）	30.00%	50.00%	70.00%
シティ世界国債インデックス（円ベース）[*3]	70.00%	50.00%	30.00%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	AB保守型
世界株式Mファンド*	30.00%	29.89%
世界債券Mファンド**	70.00%	70.23%
短期金融資産等	0.00%	-0.12%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	AB中立型
世界株式Mファンド*	50.00%	50.02%
世界債券Mファンド**	50.00%	50.12%
短期金融資産等	0.00%	-0.13%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	AB積極型
世界株式Mファンド*	70.00%	69.99%
世界債券Mファンド**	30.00%	30.15%
短期金融資産等	0.00%	-0.14%
合計	100.00%	100.00%

*　世界株式Mファンド：アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券
**　世界債券Mファンド：アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、AB保守型が前四半期末比＋4．60%、AB中立型が同＋4．85%、AB積極型が同＋5．10%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、AB保守型が前四半期末比＋4．78%、AB中立型が同＋5．15%、AB積極型が同＋5．52%となりました。
ベンチマークとの比較では、世界債券Mファンドにおいては、米ドルを高めの比率とした通貨配分などが主なプラス要因となりました。一方、国別配分のうちユーロ圏の残存期間戦略などが主なマイナス要因となりました。世界株式Mファンドにおいては、資本財サービス・セクターにおける銘柄選択やヘルスケア・セクターをオーバーウェイトとしたことはプラス要因となったものの、一般消費財・サービス・セクターや素材セクターにおける銘柄選択はマイナス要因となりました。資産配分に関しましては、各投資信託ともに基本資産配分を概ね維持しております。
今後も引き続き、世界株式Mファンドおよび世界債券Mファンドへの投資を通じて、実質的に世界の株式と債券へ分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ります。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

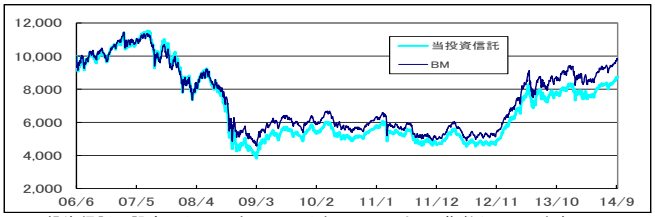
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

年金払定期付積立型変額保険
特別勘定の四半期運用レポート(2014年7月～2014年9月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフプロデュース日本株式　[2014年9月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日(2006年6月5日)を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	5.05%	5.88%	11.49%	12.22%	79.39%	▲13.05%
BM	4.51%	5.82%	11.27%	13.32%	85.58%	▲2.30%
差	0.54%	0.06%	0.22%	▲1.10%	▲6.19%	▲10.75%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、TOPIX(東証株価指数　配当込)*4です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド－1
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。バリュー株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。

※　当投資信託は、主として、
　バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュー株・マザーファンド受益証券、
　アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券　に投資します。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○　資産配分比率

	基本資産配分	投資信託
バリュー株Mﾌｧﾝﾄﾞ*	50.00%	50.14%
グロース株Mﾌｧﾝﾄﾞ**	50.00%	50.31%
短期金融資産等	0.00%	-0.45%
合計	100.00%	100.00%

* バリュー株Mﾌｧﾝﾄﾞ：バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュー株・マザーファンド受益証券
** グロース株Mﾌｧﾝﾄﾞ：アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券

○　業種別構成比率

	業種	投資信託
1	電気機器	14.89%
2	輸送用機器	12.25%
3	銀行業	8.09%
4	情報・通信業	8.00%
5	機械	5.65%
6	化学	5.62%
7	小売業	5.26%
8	食料品	5.06%
9	その他の業種	34.21%
10	現金等	0.96%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

市場	投資信託
東京証券取引所第一部	99.04%
現金等	0.96%
－	－
－	－
－	－
合計	100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	投資信託
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.67%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.55%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.42%
4	日本たばこ産業	食料品	3.35%
5	日産自動車	輸送用機器	2.87%
6	日本電信電話	情報・通信業	2.57%
7	東芝	電気機器	2.47%
8	キヤノン	電気機器	2.42%
9	三菱商事	卸売業	2.27%
10	住友電気工業	非鉄金属	2.01%
合計			29.59%
組入銘柄数			99銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比＋5．88%となりました。一方、ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数 配当込)の騰落率は、前四半期末比＋5．82%となりました。
(以下、バリュー株Mファンドは委託会社独自のセクター別、グロース株MファンドはGICSセクター別で記載。)
ベンチマークとの比較では、バリュー株Mファンドでは、セクター配分ではテクノロジー・セクターのオーバーウェイトなどがプラスに寄与したものの、銘柄選択では建設・住宅セクターにおける選択などがマイナスに寄与しました。グロース株Mファンドは、セクター配分では生活必需品セクターのオーバーウェイトなどがマイナスに寄与したものの、銘柄選択では金融セクターにおける選択などがプラスに寄与しました。各マザーファンドに対する基本資産配分を概ね維持しました。
引き続き投資スタイルの分散を行い、バリュー株Mファンドについては、企業のファンダメンタルズ分析に基づく個別銘柄選択を付加価値の源泉とした割安銘柄のボトムアップ投資、グロース株Mファンドについては、綿密な個別企業の調査に基づいて、業績および潜在成長力が市場で過小評価されていると考える成長銘柄を中心に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

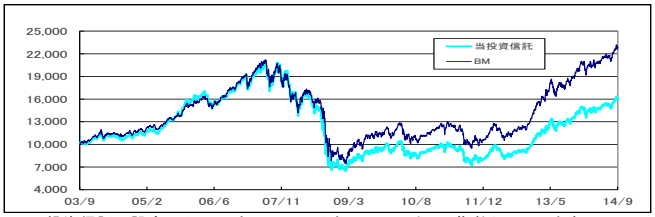
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

年金払定期付積立型変額保険
特別勘定の四半期運用レポート(2014年7月～2014年9月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフプロデュース世界株式　[2014年9月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日(2003年9月30日)を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	3.50%	5.49%	9.49%	22.95%	111.71%	60.37%
BM	3.13%	6.04%	10.14%	24.99%	129.38%	127.93%
差	0.38%	▲0.55%	▲0.65%	▲2.04%	▲17.67%	▲67.56%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2003年9月30日)を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス*2
(税引後配当金込／円ベース)です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ－3
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国／地域別構成比率

	国名	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	アメリカ	55.14%
2	イギリス	9.31%
3	日本	7.97%
4	ドイツ	5.02%
5	フランス	5.00%
6	スイス	4.29%
7	カナダ	3.28%
8	オーストラリア	2.13%
9	その他の国／地域	7.03%
10	現金等	0.84%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	金融	19.67%
2	ヘルスケア	14.20%
3	一般消費財・サービス	13.04%
4	資本財・サービス	12.96%
5	情報技術	11.95%
6	エネルギー	9.99%
7	生活必需品	8.40%
8	素材	3.66%
9	その他のセクター	5.30%
10	現金等	0.84%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	アップル	アメリカ	情報技術	コンピュータ	2.53%
2	ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	1.54%
3	東芝	日本	資本財・サービス	コングロマリット	1.40%
4	小松製作所	日本	資本財・サービス	機械	1.37%
5	エクソン・モービル	アメリカ	エネルギー	石油・ガス	1.32%
6	ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	メディア	1.29%
7	ウェルズ・ファーゴ	アメリカ	金融	商業銀行	1.25%
8	シーメンス	ドイツ	資本財・サービス	コングロマリット	1.20%
9	サフラン	フランス	資本財・サービス	航空宇宙・防衛	1.19%
10	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	ソフトウェア	1.17%
合計					14.25%
組入銘柄数					235銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比＋5．49%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス(税引後配当金込／円ベース)の騰落率は前四半期末比＋6．04%となりました。
ベンチマークとの比較では、資本財サービス・セクターにおける銘柄選択やヘルスケア・セクターをオーバーウェイトとしたことはプラス要因となったものの、一般消費財・サービス・セクターや素材セクターにおける銘柄選択はマイナス要因となりました。
委託会社では、中期的には世界経済について慎重ながらも楽観的な見方を維持しています。また、企業の収益成長は今後加速すると予想しています。世界の景気回復はまちまちの状況が続いており、なかでも欧州経済は主要な懸念材料となっています。しかし、欧州中央銀行(ECB)が景気対策として追加の金融緩和策に前向きであることは、株式市場にとっての支援材料となっています。委託会社では、企業の増益傾向やバリュエーション水準に基づき、引き続き欧州株式市場には投資機会が存在していると考えています。
現在、企業が長期にわたり一定の利益成長を維持することは容易な環境ではありませんが、強力な競争優位性と高い資本利益率を持つ企業はそれを実現する可能性が高いと考えます。今後も利益成長が期待される企業の中から、株価水準が魅力的な優良銘柄を厳選する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

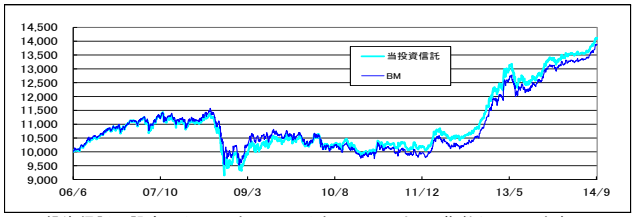
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

年金払定期付積立型変額保険
特別勘定の四半期運用レポート（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフプロデュース世界債券　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2006年6月5日）を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド－1
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債（BBB格以上）を投資対象に分散投資と投資対象証券の相対的投資価値分析を基本として、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.21%	4.21%	4.66%	11.91%	39.85%	41.23%
BM	2.08%	4.20%	4.81%	11.55%	39.67%	38.85%
差	0.13%	0.02%	▲0.15%	0.36%	0.17%	2.38%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2006年6月5日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、シティ世界国債インデックス（円ベース）*3です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国／地域別構成比率

	国名	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	アメリカ	22.45%
2	日本	17.84%
3	イギリス	15.45%
4	イタリア	8.34%
5	フランス	5.28%
6	カナダ	3.99%
7	スペイン	3.75%
8	ニュージーランド	3.06%
9	その他の国／地域	16.62%
10	現金等	3.22%
合計		100.00%

○　格付別構成比率

格付	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
AAA	49.27%
AA	26.27%
A	6.15%
BBB	15.08%
BB以下	0.00%
現金等	3.22%
合計	100.00%

格付基準：
※ ムーディーズ社またはスタンダード・アンド・プアーズ（S&P）社のうち、いずれか高いほうを採用しています。

○　債券種別資産構成比率

	債券種別	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	国債・政府機関債等	84.58%
2	社債	12.19%
3	現金等	3.22%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付 ムーディーズ	格付 S&P	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	米国国債	アメリカ	0.125%	2019年4月15日	Aaa	AA+	4.89%
2	米国国債	アメリカ	1.500%	2016年6月30日	Aaa	AA+	4.53%
3	イギリス国債	イギリス	2.000%	2016年1月22日	Aa1	AAA	2.52%
4	日本国債	日本	0.300%	2018年3月20日	Aa3	AA-	2.51%
5	ニュージーランド国債	ニュージーランド	5.000%	2019年3月15日	Aaa	AA+	2.42%
6	米国国債	アメリカ	0.375%	2016年1月15日	Aaa	AA+	2.35%
7	イギリス国債	イギリス	2.250%	2023年9月7日	Aa1	AAA	2.32%
8	日本国債	日本	1.600%	2033年3月20日	Aa3	AA-	2.31%
9	米国国債	アメリカ	0.625%	2016年11月15日	Aaa	AA+	2.27%
10	イギリス国債	イギリス	1.750%	2019年7月22日	Aa1	AAA	2.26%
合計							28.37%
組入銘柄数							159銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○　ポートフォリオの状況

	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
平均複利利回り	1.51%
平均クーポン	2.71%
平均残存期間	7.61
実効デュレーション	6.27

※「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。
※「実効デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比＋4．21%、一方、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス（円ベース）の騰落率は前四半期末比＋4．20%となりました。
ベンチマークとの比較では、マザーファンドにおいて、米ドルを高めの比率とした通貨配分などが主なプラス要因となりました。一方、国別配分のうちユーロ圏の残存期間戦略などが主なマイナス要因となりました。マザーファンドのポートフォリオでは、国債については、カナダ国債やマレーシア国債などを一部売却しました。一方、イギリス国債やアメリカ国債などを買い増しました。ユーロ圏の国債については、オランダ国債などを一部売却したほか、オーストリア国債を全額売却した一方、イタリア国債やベルギー国債などを買い増し、全体では組入比率を引き下げました。社債については、金融セクターやエネルギー・セクターなどの銘柄を一部売却しました。
委託会社は、2014年の世界の経済成長は地域によりまちまちですが、全体では緩やかな回復基調にあると見ています。国債については、日本について、相対的な魅力度の観点から組入れを低めとするほか、ユーロ圏については、主要国を中心に組入れを低めとする方針です。投資適格社債については、企業の財務状況は健全であり、収益力も高いと判断していることなどから、現在の組入比率を維持する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

年金払定期付積立型変額保険

用語説明

＊1「リバランス」とは、当初決定した資産配分比率に調整することをいいます。
＊2「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス（税引後配当金込／円ベース）は、MSCIワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに、
わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。
＊3「シティ世界国債インデックス（円ベース）」とは、Citigroup Index LLCが算出・公表する指数で、
1984年12月末日を100として世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し指数化したものです。
シティ世界国債インデックス（円ベース）に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。
＊4「TOPIX（東証株価指数 配当込）」とは、東京証券取引所第一部に上場されている普通株式全銘柄の浮動株調整後の時価総額を指数化し、
配当収益を考慮したインデックスであり、市場全体の動向を反映するものです。TOPIX（東証株価指数）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、
この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、
TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動などに伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

お客様にご負担いただく費用は、危険保険料、各保険契約管理費、および運用関係費の合計額となります。

＜第1回の年金の支払事由発生前にかかる費用＞

項目	費用	備考
危険保険料	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に、危険保険料率を乗じた金額	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(保険料比例部分) ***契約日が2013年10月1日以前のご契約者様**	保険料（任意一時払保険料を除く）に対し、 **3.00%**	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(保険料比例部分) ***契約日が2013年10月2日以降のご契約者様**	保険料（任意一時払保険料を除く）に対し、 **5.00%**	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(定額部分)	**毎月250円（固定費）**	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(危険保険金額比例部分)	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に対し、**0.01%／月**	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(積立金額比例部分)	積立金額に対し、**年率1.00%** (1.00%／365日を乗じた金額)	毎日、積立金から控除します。

※ 危険保険料は、危険保険金額が積立金額の変動によって変動すること、また、危険保険料率が被保険者の年齢や性別によって異なることから具体的な数値を記載することができません。危険保険料率について詳しくは、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。
・ 毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額が1,000万円を超える場合、高額割引が適用され、その月の保険契約管理費(危険保険金額比例部分)がお安くなります。ただし、基本年金年額の減額や積立金額の増加などにより、危険保険金額が1,000万円以下となる場合には、高額割引は適用されなくなります。

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について　②

＜積立金の移転や解約などにかかる費用＞

項目	時期	費用	備考
積立金移転費用	積立金の移転時	【書面による移転申込みの場合】 **月1回目1，500円**、 **2回目以降は1回につき2，300円**(*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		【インターネットによる移転申込みの場合】 **月1回の積立金の移転は無料**、 **2回目からは1回につき800円**(*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。
解約控除	解約時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%～1%を乗じた金額)と危険保険金に対する解約控除額(危険保険金に解約控除率0.50%～0.05%を乗じた金額)の合計額	解約日が契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数に応じて計算した金額を、 解約日の翌営業日の積立金額から控除します。
解約控除	積立金の一部引出時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%～1%を乗じた金額)	一部引出日が契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数に応じて計算した金額を、 一部引出請求金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行った回数

※ 経過年数については1年未満は切り上げとなります。

※ 無償引出限度額(解約日または一部引出日の前日の積立金額の10%相当額)と同額の積立金額までは上記の積立金に対する解約控除額の計算対象となりません。ただし、すでに積立金の一部引出が行なわれている場合はその合計額を無償引出限度額から差し引きます。

※ 解約時の払戻し金の支払いに際しては、解約日の属する月に控除すべき危険保険料および保険契約関係費を払いもどし金額から差し引いてお支払いします。

※ 基本年金年額の減額、契約の型の変更、保険期間の短縮の際にも、危険保険金額の減額により、危険保険金額に対する解約控除が適用される場合があります。

※ 将来、上記の内容が変更になることがあります。

●運用関係の費用

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフプロデュース30 **年率0．7992%程度**（税抜年率0．74%程度）	投資信託の純資産額に対して、 毎日積立金から控除します。
		ライフプロデュース50 **年率0．8532%程度**（税抜年率0．79%程度）	
		ライフプロデュース70 **年率0．9072%程度**（税抜年率0．84%程度）	
		ライフプロデュース日本株式 **年率0．8856%程度**（税抜年率0．82%程度）	
		ライフプロデュース世界株式 **年率0．9180%程度**（税抜年率0．85%程度）	
		ライフプロデュース世界債券 **年率0．5616%程度**（税抜年率0．52%程度）	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、
これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

＜第1回の年金の支払事由発生以後にかかる費用＞

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の**1%**	年金支払開始日以後、 年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。